

**【編集後記】**

『部落解放研究』12号をお届けする。部落解放運動をとりまく厳しい情勢が続くなか、広島部落解放研究所の地道な、しかし意欲的な研究活動が続いている。研究部会の体制を整え、新しい編集委員も加わり、本誌の編集機能も高まった。縦書きから横書きへ変える、投稿規程を設ける等、本誌の体裁を学術誌に一步近づけた。今後、講読層も全国へ広げたい。

本誌は、部落解放研究の課題を基底に、多彩な主題の論文で構成されている。これも、本誌の意欲的な問題意識として、積極的に評価したい。岡田論文では、人権「擁護」法案にみる「人権の視点」が厳しく批判された。山北論文では、運動・支援・関係に不可避のアポリアが真摯に追究された。小森論文では、佛教教義の解釈をとおして、煩惱論の人間的意味が展開された。伊藤論文では、広島のエスニシティの布置と動向が詳細に分析された。安論文では、介護実践からみた在日韓国人一世の生活世界が描写された。青木論文では、テロリズムのイデオロギー暴露が試みられた。山本論文では、当研究所の広島近代部落研究会の主題、山本政夫研究の意味と解放理論の射程が提起された。いずれも、状況認識と問題意識、思想の質において遜色ない論文と考える。研究所所員はもとより、県内・県外の講読者によりき問題提起となれば幸甚である。また、わが研究活動における議論沸騰の触媒としたい。

(A)